

上京

史蹟と文化



美を創る

上京の史蹟⑦

雅の茶会

上京文化講座

蹴鞠の撮影会

上京区女子バレー・ボールチーム

社会福祉法人

上京区民 ふれあいまつり

読者の声

上京クイズ「これほどいきましょう!」

7

VOL. 1994

美を創る

御菓子司



虎屋

十七代当主

黒川光博

京都市上京区一条烏丸西入



御所の辺り一條烏丸の角に、

日本文化の一担い手として、古くから

王朝人との深い関わりをもつ御菓子司・虎屋がある。

その歴史は古い。口伝によると、遠く奈良朝の頃、すでに御所の御用をつとめていた。その後、桓武天皇の平安遷都に伴い、虎屋もまた京に移り住んだと言われる。「応仁の乱」など、世の乱れにより、一時空白はあったものの、室町末期、中興の祖と言われる初代黒川円仲の出現は虎屋を再び禁裡の御用の座へと押し上げた。彼は

文・中島孝廸

才智に優れ、医学をも心得、病に悩む人々を助けたので、その名声は一層高まり隆盛を取り戻した。

消費経済が最も高度に成長した江戸中期、五代光富が勅命によつて近江大掾に任せられ御所の信任を得たこと也有つて、公家、町方はもちろんのこと、諸大名の間にまで菓子司・虎屋の名は広まつた。

長い時の流れの中で糺余曲折もあつたが、代々が育み培つてきた虎屋の歴史は、まさに和菓子の歴史であると言つても過言ではない。

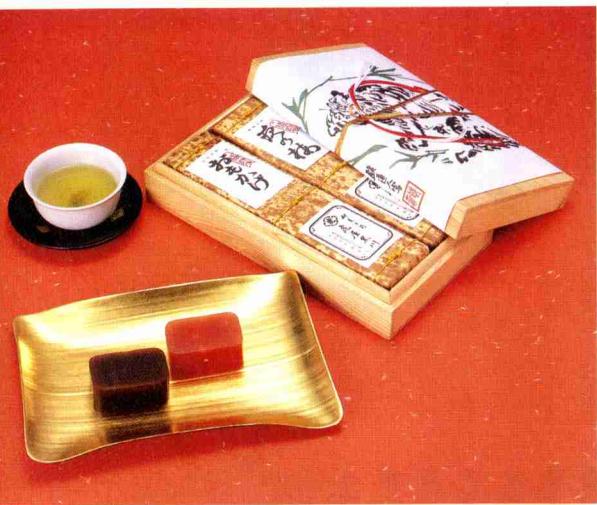
しかし、明治維新による東京遷都は、昔日の盛運を期待した京都市民には晴天の霹靂であつた。家業の盛衰を御所に依存していた虎屋にとつてもまた、それは深刻な問題であった。十二代光正氏は意を決し、新しい時代の流れに沿つて明治二年、京都の店は残し、その中心を遷都とともに東京へ移した。



昭和五十五年、十六代光朝氏は、日本文化の一つである和菓子を広く海外に紹介し浸透させるべくパリに出店され、今日、盛況を博している。次いで、十七代光博さんも世界の情報の発信地であるニューヨークに、昨年、新店舗をオープンされた。

このように、古いのれんを守りながら常に新しい時代の息吹を先取りしてきた虎屋さん。現当主の光博さんは「世の中はまだまだ大きく移り変わるでしょう。しかし、いかなる時代にあっても、虎屋は、今日まで歩んできた貴重な体験を生かし、これまでと同様、厳選された最良の原材料と伝統の技術、そして、品質管理のもと、新しい時代の変化に即応した菓子作りに励み、お客様のご愛顧に報いていく覚悟です」と、おっしゃる。

左甚五郎作と伝えられる虎屋の看板です。中央は虎、右上方に洲浜と羊羹を表し、下の円形は饅頭を象っています。▶



上京の史蹟

その七

上京の歴史的推移

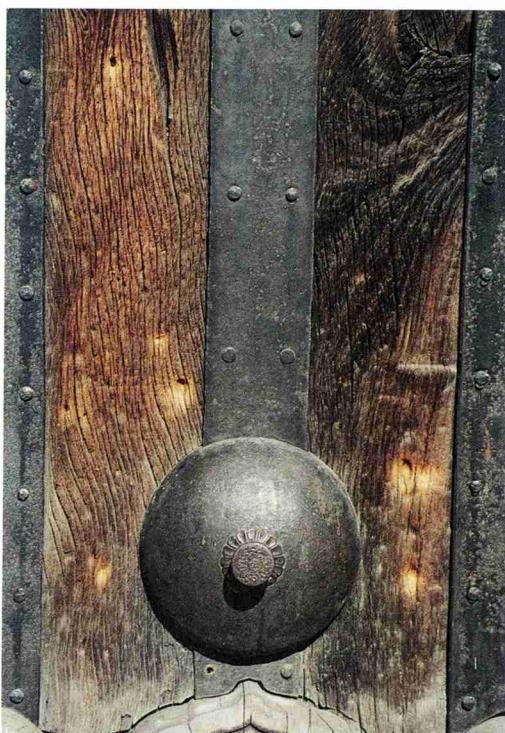
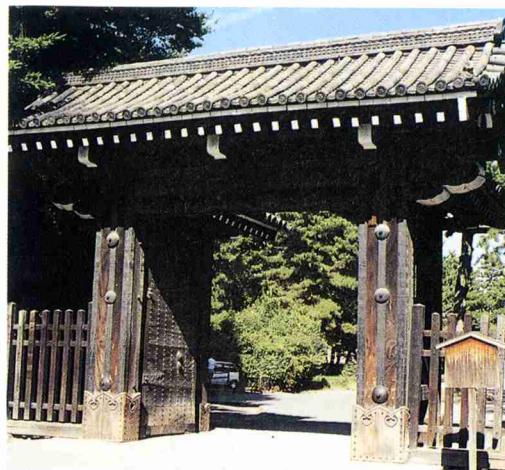
江戸時代（その四）

幕末動乱と禁門の変

江戸時代末期、十九世紀になると、封建社会の土台を揺るがすような動きが目立ってきました。毎年のように起きる大飢饉。それに伴つて勃発する百

姓一揆や打ち壊しがいつそう激しくなり、都市部には農村からの流入者や行き倒れがめだつてきます。しかし、幕府や諸藩はこれに対する有効な対策も無いまま、やがて荒廃した農村では、農民自身の手による商品生産が進みます。その結果として小ブルジョワ化した富農層と、その逆の貧農民層が生まれてきました。さらに都市の商業資

古い政治形態では、深刻な封建的危機に追いつけなくなっていました。このようないちじゆう中、徳川幕府は朝廷を国家の長として敬う態度を取りながらも、崩れつつある幕藩体制を維持するために朝廷権威を無力化しようとします。実質的には、朝廷を「禁中並公家諸法度」



蛤御門と今なお弾痕をとどめる門柱

本が入るに従い、マニュファクチャア経営（分業生産式経営）などの新しい生産様式が生まれてきます。これは、一人の資本家が複数の労働者を雇う資本主義的経営の原始的形態であり、封建的支配体制を根本から振り動かすことになりました。幕府や諸藩では、この様式をいかに支配体制に取り込むかを考えますが、もはや幕藩体制というよりも、やがて荒廃した農村では、農民自身の手による商品生産が進みます。その結果として小ブルジョワ化した富農層と、その逆の貧農民層が生まれてきました。さらに都市の商業資本が、志士たちの生活を脅かすことにとなりました。そこで、尊皇論者は攘夷を唱え、尊皇攘夷派となり、これに対し、開国論者が佐幕派（幕府を助けることを主義とする一派）となりました。井伊大老は、安政五年（一八五八年）、反幕勢力の弾圧（安政の大獄）を計りましたが、さらに多くの反感をかうことにより、万延元年（一八六〇年三月三日）、桜田門外において殺害されるのです。この事件はその後、反幕運動を激化するきっかけになりました。封建制度の動搖の中、大老の暗殺という異常な情勢に追い込まれた幕府は、支配体制をより強めるため、朱子学の

などで厳しく取り締まることによって、政権を独占してきました。この時点では、幕藩体制改革のための動きは未だ見られませんでした。実際の行動に移すには、十九世紀のなかばにおける外圧を待つ必要があったのです。現に、対外交渉の発生後もなく、幕藩の障壁を除いて改革派が全国的に連合するという動きが見られ、明治維新の先駆者たちが活動を開始しました。

大義名分論を根拠として、尊皇をうたない、朝廷の権威を利用してしまいます。孝明天皇の妹・和宮が将軍家茂の夫人として降り、公武合体が実現しましたが、これも尊攘派の志士たちの怒りをあり、この政策を進めた中心人物の老中・安藤信正は、文久二年（一八六二）一月十五日、坂下門外で襲撃されます。ちなみに、安政の大獄までの尊攘派の志士たちは、勢力のある藩の大名や家臣、あるいは京都に集まる浪人学者が中心であり、尊皇すなわち倒幕ではなく、尊皇でもあり敬幕でもあります。だから倒幕思想を持つ者が輩出するようになつてきました。人間の思想というものは時代につれて変化するというこ

幕藩体制の矛盾が表面化しだしたその頃、特に薩摩、長州両藩内では活発な動きがありました。もともと各藩は、アメリカ、イギリスなどの接近による幕府の海防強化要請に乘じ、各自の軍事強化、並びに近代化を進め、幕府からの独立や対抗の意識を強めていました。しかし、このような意識や動きは、あくまでも現実の秩序に不満を持つ中・下級武士層だけに見られ、改革派の彼

等に対し、上級武士たちは保守的でありました。やがて、下級武士たちは、尊皇攘夷のスローガンのもとに、ぞくぞくと結集してゆきます。

このように、全国的に広がりつつあった尊攘派の動きに対して、薩摩藩の島津久光は、大兵を率いて上洛、孝明天

皇に、尊攘派の急進的な行動の抑制と、幕府との協調を訴えました。こうして彼は、伏見の寺田屋に集まつた自藩の急進派を弾圧（寺田屋事件）し、江戸に下つて幕府に幕政改革の勅命を伝えました。改革の中でも、会津藩主・松平容保が任命された京都守護職の新設は、久々に京都を歴史の檜舞台に躍り上がらせるきっかけとなつたのです。

しかしこの時期の特徴は、日本北の会津の家臣と、西の外れの長州、南の土佐といった、地方の侍同志や農民出身者が京都を舞台に血みどろの戦いを繰り広げたもので、京の人々はただ、その争いに巻き込まれることになつたのです。諸国から様々に口実を設けて國を飛び出してきた志士や浪士は、その日の生活に困りながら商人を脅すなど、一般市民までが巻き添えにあうことになります。例えば、堀川筋では長州系浪士の焼き討ちがあつたり、糸問屋・大和屋庄兵衛の家が襲われ、絹糸

が持ち出されでは堀川に投げ込まれる事件や、土蔵が叩き壊されたりしました。このような中、京都市民の間では戦争の噂が広まり、疎開が始まりつづきました。そしてついに、守護職も武力に訴えざるを得なくなつてくるのです。

一方、尊攘運動の中心であつた長州藩では、桂小五郎、高杉晋作、久坂玄瑞らを筆頭に、尊攘派が藩の主導権をとるようになつてきました。土佐藩でも同じような動きがあり、両藩の志士たちは薩摩藩の政治的進出に対して、

このような動きに対し、京都守護職であつた会津藩主・松平容保は、将軍とともに大兵を率いて再入洛していいた薩摩藩と連絡を取り、急進的な長州の尊攘派を弾圧すべく体制を整えたのです。いわば朝廷の取り合いの舞台になつた京都では、文久三年（一八六三）八月十八日早朝、長州勢一、八〇〇人の他、薩摩勢も加わり、大規模な武装兵力が堺町御門へ結集してきました。薩摩、会津藩兵で京都御所の各門は固められ、激論と揉み合いになり、長州藩は大砲二門を御所に向け威嚇しました。しかし、勅使が長州藩邸へ赴くことにより兵は撤退し、大和行幸は中止、三条実美らの尊攘派公卿と宮門警備につく長州兵も追放されました。尊攘派公卿七名は、長州藩士らとともに長州へ落ちる（七卿落ち）ことになり、それ以後京都は、公武合



戦火の中を逃げまどう京の民衆
京都大学附属図書館蔵「甲子兵燹図」より



三条大橋を避難する民衆
京都大学附属図書館蔵「甲子兵燹図」より



大火が広がる京の街を東山より望む
京都大学附属図書館蔵「甲子兵燹図」より

たのです。しかし、長州藩を中心とする尊攘派は、この後も京都に残留する同志と連絡を取り合い、なんとか天皇を取り戻すべく、再上洛を考えます。特に久坂玄瑞を筆頭とする急進論がさかんになる一方で、桂小五郎は冷静に事態を判断して反対の立場を取り、また、高杉晋作は慎重論を唱えます。そのような情勢の中、元治元年（一八六四年）六月、池田屋事件が起きました。事件は、急進派をいきり立て、翌月、国司信濃を始めとする三家老と久坂玄

瑞ら長州藩士一行は、諸兵を率いて伏見、嵯峨、山崎方面に向かいます。この中で最高責任者は三家老でしたが、実際の作戦計画を立てたのは真木和泉でした。彼らは、朝廷に対し入京許可を求める一方、藩主父子や三条実美など公卿の赦免を願う嘆願書戦術を行い、その間に潜伏していた在京の志士たちは二十六日、天竜寺に入り、翌二十七日には来島又兵衛隊も合流して陣営を整え始めました。長州側は朝廷の解兵の



「禁門の変」を報道した一枚刷瓦版

令も聞き入れず、再三入洛の勅許を求めます。七月に入り、国司信濃、益田右衛門介も天竜寺および山崎に到着しました。これらぞくぞく集まる長州勢が、一大気勢を擧げるのを見て、京都側も諸藩の応援を受けてしだいに合戦の準備に入つてゆきました。七月十七日、ついに朝議は長州勢の退去に決り、これに従わぬ場合は追討ということに決議されたのです。長州勢はこれに応じず、急拠軍議を男山で開き、戦略的にはあまりにも無謀な「進撃」を決断

元治元年（一八六四）七月十九日早晩、ついに尊攘派長州の玉碎戦ともいえる蛤御門の変（禁門の変）の火蓋が切られました。天竜寺に駐屯していた国司信濃隊は、巧みに警備陣をすり抜けて午前七時頃御所に達しました。総勢七〇〇ともいわれた精銳部隊は、間道を通って一条戻橋に達し、そこから中立壳、蛤、下立壳の諸門に向かって進撃して行きます。一方、会津兵は、敵の大砲二門を西方に向けていました。しかし、長州兵は下立壳門から突入し、蛤門と中立壳門を守っていた会津、桑名兵の背後から激しく攻めかけました。蛤門は中立壳門へ達しました。そして、宮門へ迫ろうとしていたまさにその時、天竜寺に向かおうとしていた薩摩隊や、乾門に就いていた約三〇〇の薩摩兵が来援し、また、後ろから二〇〇余りの新選組が長州兵を取り囲み、蛤門付近まで押し返しました。蛤門は次第に修羅場と化し、激戦が繰り広げられます。そうした中、宮中に流弾が飛来するなど、御所内は大変な混乱にみまわれました。当時、弱冠十三歳であつた皇儲睦仁親王（後の明治天皇）は、恐ろしさのあまり逆上されたり、

一時氣絶されたとまで言われ、その他、「神器を入れたる櫃も縁側に並置せられ」たままであつたという程ですから、その名状しがたい混亂が想像できます。

一方、蛤御門の戦いが終りかけた頃、益田右衛門介、久坂玄瑞の山崎隊が堺町御門を目指して北上して来ました。しかし、ここを守る越前福井藩を破ることができるず、鷹司邸に立て籠もつて応戦を始めます。やがて両者間で激しい砲撃戦となり、ついに鷹司邸は打ち破られ火を発します。

ところで、この戦いで最大の被害者は、尊攘派や佐幕派とは無関係の京都市民でありました。戦闘は、御所の周辺と伏見という局部的なものでした。火の手は京都を火の海と化してしまいました。公家屋敷が九条邸を中心と拡大してゆきました。悪いことこの年の京都は、七月十九日に至るまで、四十五日間の晴天続きという超乾燥状態でありました。火はその後三日間燃え続け、堀川と鴨川の間、北は一条通りから南は七条通りに至るまで、地域の三分の二を焼きつくしました。この惨状を「甲子兵燹図」が、克明に描写し、それはまるで地獄絵のようであり

ます。「何一つ持ち出さないとまもなく土蔵あれど戸をしめる間もなく、先ず下京さして逃ぐ」や「何かわからぬがタダごとではないらしい」など、相次ぐ火の手に市民は戸惑い、御所を目指して上ってくる軍勢にキヨトンと見ている様子がうかがい知れます。また、「一軒の家に五軒、七軒所持の衣類の風呂敷包み、櫃におしめのはいったまま梅干しや香のもの帳面類に如来さま、位牌、過去帳、白砂糖、食いさしの蒸菓子やら不都合だらけの事どもなり」といいますから、文字通り目に付くもの手当たり次第に風呂敷へ押し込んで逃げたり、ともかく家財道具は藏に押しこめるものの、その藏が焼けることなど考へる暇もなかつたようです。十

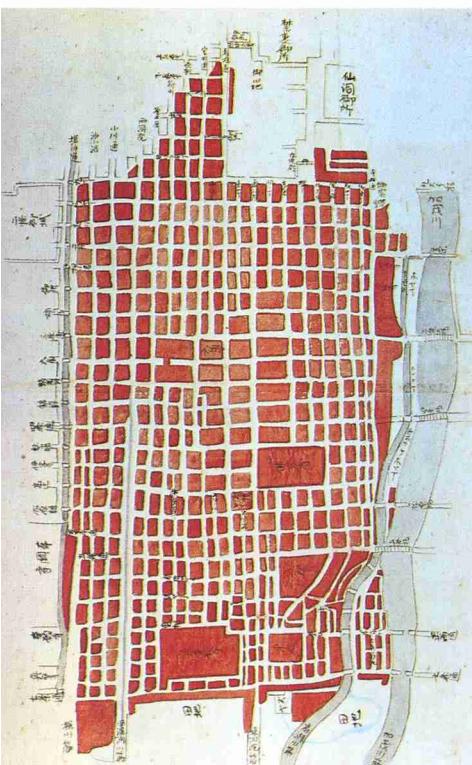
九日夜になつても火勢はいつこうにおさまる気配もなく、西は堀川、東は寺池上るにある六角牢獄にも火は迫つて行きました。幕府側はこの機会を逃さず、七月二十日、破獄を企てたという理由をでつちあげ尊攘派志士の処刑を決定します。かくて、近藤勇率いる新

町間が一面火の海となりました。防火手段もないまま、市民は周辺の山中、野中で市中の火を眺めながら呆然と夜を明かしました。

二十日になつてみると火は南へ引火し、六角堂、因幡薬師、四条、松原、五条、洛西天竜寺からも出火する一方で下山崎、天王山、八幡でも火の手が上がり、この辺りは大丈夫と避難していた人々は、せっかく運び出した荷物を捨て、火に追われ当てもなくまた逃げ出して行きました。やがて昼には、東本願寺や今熊野權現堂にも火の手が上がりました。このような中、小川通御池上るにあらん角牢獄にも火は迫つて行きました。幕府側はこの機会を逃さず、七月二十日、破獄を企てたという理由をでつちあげ尊攘派志士の処刑を決定します。かくて、近藤勇率いる新

選組の一隊が、午後二時より三時間にわたって、平野國臣はじめ、尊攘派クーデターにより囚われてい志士たち三十名を斬首しました。ちなみに処刑された志士たちの遺骨は、明治十年（一八七七）に西ノ京刑場址を掘り起こして下立売通御前西入るの竹林寺に改葬されました。しかし、この「破獄」については確実な根拠もなく、後に松平容保は斬首について大いに憂い、幕府大目付・永井主水正他、処刑を決定した町奉行らを厳しく戒告しております。

ようやく二十二日になつて、火は鎮まりました。この惨事は、天明の大火につぐものとなり、実に一万八千軒の家が焼失したといわれています。帰る場所を失つた人々は川原や町中に溢れ、ただ涙するばかりで途方にくれていました。もともと、禁門の変によつてもたらされた大火や、これまでの尊攘派志士の行動は、まったく民衆から遊離しており、支配層内における対立対抗ならびに薩・長藩などの天下支配欲から生じたものでした。もはや「大和魂」の私利私欲が京都の町を火の海と化した、悲しい歴史上の事実であります。



京都の焼失地域を表した地図
京都大学附属図書館蔵「甲子兵燹図」より

会記（本席）

主 不審菴

掛物 即中斎筆色紙幅
嘉辰令月歛無極

花入 染付高砂写 妙全造
矢筈板シキテ

香合 しゃくやく
表千家大門古材 独楽 萬象作

唐銅朝鮮風炉、切合セ釜 净心作
而妙齋好淺黃大高日月腰風炉先屏風

吉兵衛作
色重不紙盆敷シキテ

即中斎好面朱桐木地長板 小兵衛作
水指 惺齋好黃交趾荒磯平 妙全造

茶器 即中斎好青貝入早苗螢雪吹
宗哲作

茶碗 旦入作黒平 銘清瀧 惺齋作
利齋作

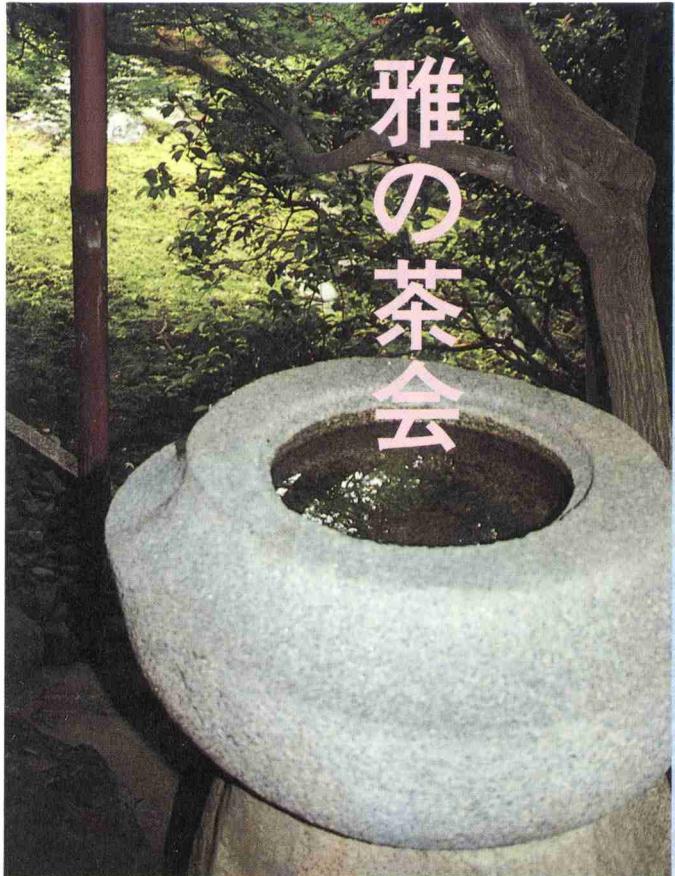
替 仁清写 水車の絵 即中斎箱
永樂造

建水 朝日焼 棒の先 碌々齋作
利齋作

蓋置 玄琢の竹 即中斎判
碌々齋作

茶葉 松の木銘々盆二
花あやめ

茶葉 嘸月製
珠の白 柳桜園詰
花あやめ

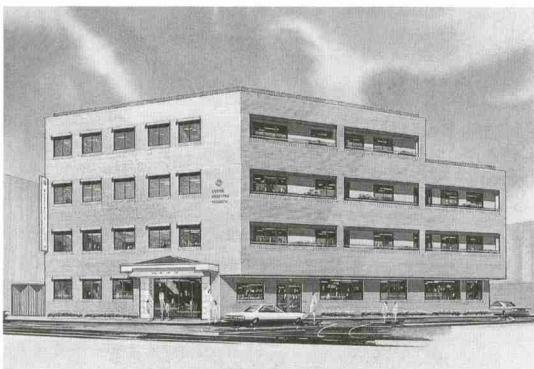
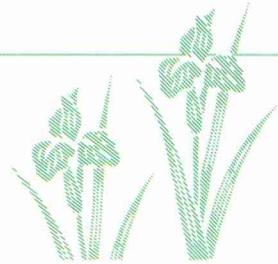
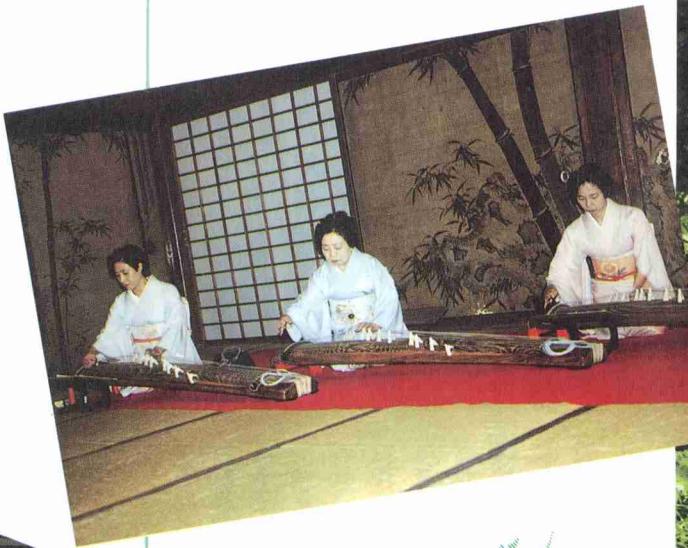


本年の春の上京区民茶会は、平安建都一千二百年を記念して「雅の茶会」と銘打って催されました。このお茶会は上京区文化振興会と上京区役所の共催により、上京区の文化発展と地域振興を目的として行われているもので、今回は表千家家元により、五月二十九日に相国寺方丈を会場として、方丈庭園の緑を楽しみながら、地域の人々五百

五十人が、一椀の茶を喫しました。今回は特に宮城会の社中によって演奏される箏曲を聞きながら、十二単の衣紋などを加えて王朝の美を鑑賞しました。特に十二単は宮中の衣紋を担当されていいる社団法人霞会館の衣紋道研究会の方々によって、午前・午後の二回、実演が行われ、上京区民の娘さん二人が美しいお姫さまに変身いたしました。



会記（本席）	主 不審菴
掛物 即中斎筆色紙幅 嘉辰令月歛無極	
花入 染付高砂写 妙全造 矢筈板シキテ	
香合 しゃくやく 表千家大門古材 独楽 萬象作	
唐銅朝鮮風炉、切合セ釜 净心作 而妙齋好淺黃大高日月腰風炉先屏風	
吉兵衛作 色重不紙盆敷シキテ	
即中斎好面朱桐木地長板 小兵衛作 水指 惺齋好黃交趾荒磯平 妙全造	
茶器 即中斎好青貝入早苗螢雪吹 宗哲作	
茶碗 旦入作黒平 銘清瀧 惺齋作 利齋作	
替 仁清写 水車の絵 即中斎箱 永樂造	
建水 朝日焼 棒の先 碌々齋作 利齋作	
蓋置 玄琢の竹 即中斎判 碌々齋作	
茶葉 松の木銘々盆二 花あやめ	
茶葉 嘸月製 珠の白 柳桜園詰 花あやめ	



あたたかい看護と治療で
地域医療に貢献……

特定医療法人 相馬病院

〒602 京都市上京区御前通今小路下ル南馬喰町911番地
TEL. 075(463) 4301(代)



上京文化講座

足利義政・日野富子と 東山文化

講師有馬頬底氏

足利家と日野家とは強いつながりがあります。その最初は三代将軍義満で正妻として日野業子を迎えました。さらには業子の姪康子が側室に入り、のちに正室になります。その息子の四代義持も日野家から正妻として栄子を迎える。五代義量が若くして亡くなつたあと、六代将軍となつた弟の義教の正妻も側室も日野家の姉妹です。義政は永享八年（一四三六）に側室の重子から生まれ、三春若君といわれて強い星のもとに成長しました。

ところが、その間に嘉吉の乱が起きました。この事件は嘉吉元年（一四二一）に、赤松満祐が義教将軍を観能のためと称して自分の屋敷に招き、暗

後は義政と改めます。將軍といつても少年ですから細川勝元が後見人になります。それに義政には今参局という優秀な乳母がついていました。この人は大館氏の女で、才女といわれました。将軍家の力が弱つて行くのを見かねて、つい政治に口を出します。そこに生みの親、重子との確執がありました。

義政十九歳の時、日野家から十六歳の富子を正妻に迎えます。そこで今参局が身を引こうとしている時、富子は死産します。母の重子は、お今が呪い殺したとして近江の竹生島へ流し、暗殺してしまいます。

こんなことで延々十一年間続^キ、京

す。その中でたつた一つ焼け残ったのが千本釈迦堂です。

のもとに成長しました。
ところが、その間に嘉吉の乱^{かきつ}が起こりました。この事件は嘉吉元年（一四四一）に、赤松満祐が義教將軍を観能のためと称して自分の屋敷に招き、暗

義政十九歳の時、日野家から十六歳の富子を正妻に迎えます。そこで今参考局が身を引こうとしている時、富子は死産します。母の重子は、お今が呪い殺したとして近江の竹生島へ流し、暗殺してしまいます。

応仁の乱

義政は将軍として政治に向いていなかつた人ですが、その代り作庭・作事を好みました。当時、一番苦しい思い

のため土一揆や馬借一揆が起こり、二十八歳の時に將軍職を淨土寺にいた弟の義尋に譲ろうとしますが、その翌年の寛正六年（一四六五）に富子が男の子を出産します。それが九代將軍となる義尚です。一方、義尋が還俗した義み視にも次の將軍だというので家来がつきます。そこで富子は山名持豊に頼り、

二大勢力の細川勝元は義視と結びます。

ついに応仁元年（一四六七）一月十
八日、上御靈神社のところで、細川・

山名軍が衝突、応仁の乱の火蓋が切つ

て落とされるわけです。それぞれの軍隊が全國から集まつて、両方あつせて

二十九万位の軍隊が京都にひしめきあい
隙が全くない算にて 向方おれせ

ます。あっちこっちで戦をやり、その

十月には細川方は相国寺に陣取り、西陣に陣取つた山名方とにらみ合い、十

月十五日に相国寺は焼け、その頃の京

都の有名な建物はみな焼けてしまいました。その中でたった一つ焼け残ったの

が千本釈迦堂です。

菓匠 世家玉壽軒

〒602 京都市上京区今出川大宮東入
TEL (075) 441-0319
(075) 414-0319

内科・消化器科・循環器科
呼吸器科・外科・整形外科
小児科・放射線科・理学診療科
人間ドック

医療法人 幸生会 室町病院

〒602 京都市上京区室町通上立売下ル裏築地町88番地
TEL (075) 441-5859

都の三分の一が全焼します。『蔭涼軒日録』によるところ、京都五山から集めた米で炊き出しますが、三日ほどで米がなくなつたといいます。飯尾助六左衛門が「汝れや知る都の野辺の夕雲ひば雀すずめ上がる見ても落つる涙は」という有名な歌を残しています。ところが不思議なことに、山名宗全と細川勝元が同じ年に相次いで亡くなるのです。これで両方とも大将が亡くなつたので、ぽつぽつ止めようというので、軍隊を引き揚げ決着がつきます。

東山山荘と東山御物

そこで義政は義尚に九代將軍を譲つて隠居します。いつまでも室町御所にいるわけに行きませんから、隠居所として浄土寺の焼跡に東山山荘の建設を計画するわけです。政治をやめ、今後は文化人として生きて行こうといふことになつて、人間が変わつたように実力を發揮します。ある意味では、代々将軍だからといって将軍をさせるのは気の毒な話で、やつと晩年になつて花が開いてくるのです。それから約十年間が義政の本当の生涯なのです。そして東山文化という遺産を残すことがあります。義政は工事の監督も自分が

やり、その作庭に一番信頼していた善阿弥が登用されます。

義政がもう一つ功績として残したのが、足利家に伝来して中国貿易によるコレクションを系統立つて整理したことです。ここに目をつけた義政は東山御物を制定しようとして、それを手伝つたのが芸阿弥でした。能阿弥・芸阿弥・相阿弥と三代にわたつて仕えましたが、阿弥とは南無阿弥陀仏の阿弥なのです。身分が低いために、半僧半俗で芸術顧問として仕えます。これを阿弥派といいます。

その整理のやり方は、一番最初に中國の絵画、次に青銅器、陶磁器と、さまざまのものを上・中・下にランクをつけ、作者の名前も三百人近く羅列しています。それを最後に完成したのが相阿弥で『君台觀左右帳記』という巻物です。

この時代から利休までのものを大名物、利休時代のものを名物、利休以後のものを中古名物というように今も分けられています。

もう一つは茶の湯です。義政以前は水屋をお点前として客のところへ持つ

て行くので、客の前でお点前をしません。それまでは闘茶という様式が流行していました。闘茶というのは、何十種類のお茶を飲ませて当たつた人に賞品が行くというギャンブル的なものです。ばさら大名といわれた佐々木導誉はその胸元でした。

義政は能阿弥と相談して、遊びの要素が強過ぎるのを、紳士的な面を持つ茶の湯に改めます。これだけ秀れた美術工芸品に囲まれて、鑑賞しながら一服のお茶をお互いに飲もうじゃないかというのです。義政と能阿弥が研究を重ねて、ようやく出来上がつたのが東山流茶の湯で、客の前でお点前をするために、道具類を運ぶのにも能の運び足を用います。お稽古も袴や素襪・狩衣という最高の礼服を着けます。お茶人さんが皆伝を受けて着ます十徳も元は僧服なのです。

やがて能阿弥の手引で、佗わび茶を奨励した奈良の村田珠光を召し、精神の世界を教えられ、逆に能阿弥は珠光に唐物の目利めきを授けます。珠光はそれで名物道具を持たなかつたので、一休禪師に参禅した時に、印可の証として授けられた北宋の高僧、圓悟克勤の墨跡を掛けていました。お茶席に高僧の墨跡が掛けられた最初なのです。東山

で行くので、客の前でお点前をしません。それまでは闘茶という様式が流行っていました。闘茶というのは、何十種類のお茶を飲ませて当たつた人に賞品が行くというギャンブル的なものです。ばさら大名といわれた佐々木導誉はその胸元でした。

このような義政の残された素晴らしい文化を東山文化といい、その恩恵をしていまして、闘茶の精神を取り入れられて以来、禪僧の墨跡を掛けられるようになって、東山流茶の湯と佗び茶との交流がなせる大きな進歩であつただろうと思われます。

これだけの功績を残した義政も延徳元年（一四八九）の十月に中風にかかり翌年の一月六日、五十五歳で東山山荘で、ひつそりと波乱の生涯を閉じて行きます。前年、近江の陣中で病に倒れて弱冠二十五歳の短い生涯を終えた子息の義尚を二回も見舞つた富子も、その場にはおりませんでした。

遺言で東山山荘を寺とし、その戒名をとつて慈照寺と名付け、觀音殿の別名によつて銀閣寺と通称するようになります。義政の遺骸は相国寺へ運ばれて墓所とし、御影堂が慈照院と定められました。宝篋印塔の墓は、今も境内の墓地の真中にあります。

六月十二日に相国寺の承天閣美術館で行われた上京区文化振興会の文化講座の講演を要約しました。

王朝のスポーツをカメラに

蹴鞠けまりの撮影会

九月十一日、蹴鞠の守護神である精大明神を境内に祭る白峯神宮で、蹴鞠の撮影会が行われました。この催しは、唐から日本に伝えられ千四百年の歴史をもち、平安時代以来、京都に根づいてきた蹴鞠を思う存分撮影してもらおうという趣旨のもとに、唯一の伝承団体で、上京区内に事務所を置く蹴鞠保存会（京都市登録文化財）の御協力により、上京区文化振興会と上京区役所が企画したものです。

鞠場の四隅には松・桜・柳・楓の式木が立てられ、解鞠の儀式に始まり、鞠装束に身を固めた八人の鞠足によつて一時間半の演技を二回にわたって行い、京都以外からも駆けつけた多数のプロ・アマのカメラマンが思い思いにシャッターを切つていきました。



上京区女子バレーボールチームが11区対抗予選会で優勝 西安市でのスポーツ交流京都市代表に

平安建都1200年を記念して、京都市体育振興会連合会では、姉妹都市提携20周年を迎える西安市へバレーボールチームが派遣されることになりました。

その代表チームを選ぶ予選会が9月18日に、西京区の桂川地域体育館で行われました。上京区のチームはチームワークの良さもあつて

か、強豪の伏見区に準決勝で、西京区に決勝戦で勝ち、見事優勝しました。

これによって、来る11月19日から1週間にわたる西安市でのスポーツ交流に参加する切符を手に入れたことになり、上京区とゆかり深い地での親善に期待がかけられています。

平成6年7月1日 上京区社会福祉協議会が

社会福祉法人 になりました。

やさしさいっぱい、ふれあい豊かな 福祉のまち上京 をつくるために

お元気どすか

配食訪問

さわやかに お休みやす

寝具クリーニング

ひとりぐらしのお年寄りなどを対象に
『ふれあい配食活動』を全学区で実施

ひとりぐらしや寝たきりなどの高齢者
を対象に各学区で実施

肌でふれあいたい



赤ちゃん あつまれ

子育て交流

幼児のお母さんたちの交流を促進して
子育てを応援



区民一人ひとりの参加で、福祉のまちづくりをすすめます。

■ボランティア活動に参加いただけませんか！

■賛助会員募集にご協力ください！

福祉に関する身の回りの出来事や、上京区社会福祉協議会の事業について
どんどんご希望・ご意見をお寄せ下さい。

社会福祉法人 京都市上京区社会福祉協議会

〔連絡先〕 京都市上京区丸太町通智恵光院西入中務町486番地

☎ 075-842-0348 FAX 075-842-0371

夷川五色豆



豆政

本店／〒604 京都市中京区夷川通堺町東
TEL.075(211)5211~3

三条店／〒604 京都市中京区三条通河原町東
TEL.075(255)0390

イタリアが好き！
イタリア料理専門店

レストラン

フクムラ

河原町店 中・六角河原町東入 255-5733(火・休)

四条店 中・富小路四条上ル 255-2060(水・休)

㈱イタシヨク(イタリアワイン・食品輸入元)(小売歓迎)

北・紫野大徳寺門前町 491-0900

ふれあい事業のお知らせ

EVENT

○祭○京都まつり前夜祭○祭○

上京区民ふれあいまつり

入場無料

11月5日(土)

午後4時～午後8時

正親小学校校庭

(上・浄福寺通中立堀下ル)



● テーマ ●

華の西陣 夢を織り 心ふれあう まち上京

コーナー

お楽しみ抽選会／ダーツ／フリーマーケット／人権啓発コーナー
クイズ「ここはどこでしよう」／輪投げ／スマートボールなど

模擬店

おでん／うどん／たこ焼き／イカ焼き／たこせんべい
わたがし／フランクフルト／飲み物など

見に来てね

11月6日の都大路パレードの山車「華の西陣」を会場の中央で
ライトアップします。

上京区の女性手作りの萩・桜・紅葉の造花が山車を飾ります。

お問合せは

上京区役所地域振興室 上・今出川通室町西入堀出シ町 ☎441-0111

主催：上京区ふれあい事業実行委員会 共催：上京区役所
(主管) 上京区社会福祉協議会

永年の信用と実績
真心のこもったご奉仕

葬祭センター 株式会社

公益社

本社

烏丸三条下ル ☎(075)221-4116代

北 公 益 社 / 京都市北区紫明通堀川東入 ☎075(431)7121代
中 公 益 社 / 京都市東山区五条通東大路東入 ☎075(551)0042代
南 公 益 社 / 宇治市横島町(文教短大前) ☎0774(20)0042代
滋賀公益社 / 大津市朝日が丘一丁目 ☎0775(23)0042代

読者之声

○田舎から出てきて六十余年暮らしておりますが、四季を問わず、どこへ行つても京都のよさが楽しめます。

(出水・中井百合子)

○自分の生まれ育った所をミクロでマクロで、全て胸を張つて話せるようにスミからスミまで読ませていただいております。

(出水・白井太麻子)

○本誌で改めて史蹟の多いのを知り、廻つてみたいと思つています。

(小川・吉野 弘)

○上京は古くから医学や茶道などで世に知られ、日本の文化を育んだところだったことがよくわかりました。近くの奥渕家の建物についても再認識させられました。

(仁和・姫田 歩)

記念品をお届けしました。
なお、正解者を抽籤の上、二十名に

○奥渕家の長屋門付近に住んでおります。『上京 史蹟と文化』によつて、戻橋遺跡、晴明神社、伊藤仁斎宅等々知り喜んでいます。施薬院も子供の頃に千本丸太町西南付近に塀跡があつたように思います。(仁和・藤林次郎)

○ふれあい史蹟ウォーキング等、身近にこんな所がと……今さらながら感心しました。今後、ぜひ参加したいと思ひます。

(正親 東山さかえ)



上京クイズ

前回の正解は 北野天満宮

北野天満宮には日詣りを欠かさない方も多いことでしょう。すぐお分かりになるような出題でした。この社殿は

慶長十二年（一六〇七）に豊臣秀頼が造営したもので、本殿と拝殿が石の間でつながれ、本殿の両脇に脇殿、拝殿の両側に樂の間を配した複雑な構造になっています。独立した建物の原型を

平面に残しながら、入母屋・両下・千鳥破風・軒唐破風の屋根をかけるところから八棟造ともいいます。大報恩寺

本堂とともに、上京区に現存する国宝建造物です。

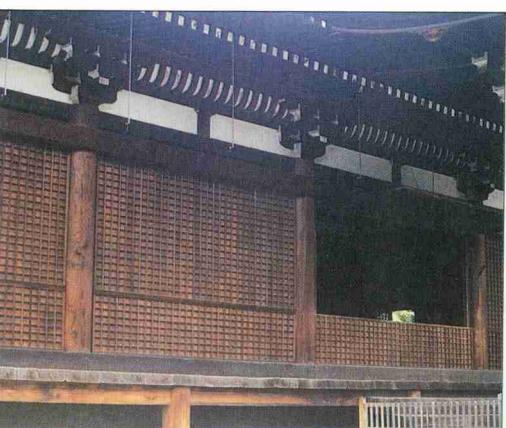
これはどこでしよう？

○正解者の中から抽籤にて二十名の方に記念品をお送りします。

○締切 平成六年十二月一日

○正解と住所・氏名・電話番号を記入の上

〒六〇二 京都市上京区今出川通
室町西入 上京区役所地域振興室



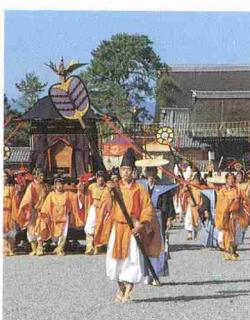
「上京・史蹟と文化」宛にハガキでお送り下さい。また本誌の読後感もお書き下さい。

編集後記

▼前号で第七号を建都千二百年を記念する特集号と予告しましたが、上京区としての行事が秋に集中しましたので次号を増ページとします。その代り本号をオールカラー印刷としました。

▼発行を目前にした校正の最中に、バレーボールの上京女子チームが優勝して中国へ派遣されるニュースが入り、あわてて記事を入れかえました。ゆかりの地での善戦を期待しましょう。

(い)



表紙の写真
京都御所を出発する時代祭の
神幸列
撮影者／浜岡 昇氏

「上京 史蹟と文化」は、区内の文化や史蹟、学区の文化活動の紹介を通じて、文化とのふれあいの場づくりをはかることを目的として、上京区民ふれあい事業実行委員会と上京区役所が発行し、年二回、上京区全世帯に配布しております。

裏千家 今日庵

茶道資料館開館十五周年記念特別展

唐物天目

——福建省建窯出土天目と日本伝世の天目——

■会期 10月2日(日)～11月13日(日)

午前9時30分～午後4時30分(入館は4時迄)
月曜日休館(但し10月24日は開館)

■主な出陳品

- 日本伝世の天目 建蓋・灰被天目・黄天目など：三〇点
- 中国福建省出土の天目……………一〇七件



茶道資料館

京都市上京区堀川通寺之内上ル
裏千家センター内

電話 四三一一六四七四